

タイ反政府デモの状況について（アセアン現地レポート臨時号）

平成26年2月17日

三重県アセアンビジネスサポートデスク

株式会社野村総合研究所（NRI）

<バンコク封鎖>

- ・ 占拠地は7ヶ所から5ヶ所に集約されたものの、引き続き主要な都心交差点・道路は反政府デモ隊により封鎖されている。該当地域への車両の交通はデモ隊により制限されており、一般車の通行できる車線・地区は限られている。
- ・ デモ隊占拠地や政府関連施設で数日ごとに手榴弾が投げ込まれている。
15日には政治的発言を続けてきたトヨタ・タイ会長（タイ人）宅が銃撃された。
- ・ 政府は警察にここ1～2週間でデモ隊を部分的に排除させようとしたが、強権を発動することなく、結果的に失敗に終わっている。
- ・ デモ隊の主導者であるステーブ元副首相（野党民主党幹部）は現政権を倒し、ひいてはタクシン元首相の影響を政府から排除するまで、占拠を続けると宣言している。

<経済・産業への影響>

- ・ 1月のバンコク2空港への国際線到着客が前年比5%減となるなど、観光業、特に封鎖地区に立地するホテルや飲食店への影響は大きい。
- ・ しかし、占拠地および特定の政府施設以外のバンコクの街中は概ね平穏であり、商業への影響も軽微。
- ・ 製造業はもとより郊外や地方に立地しており、港湾や空港、高速道路、工業団地、税関・検疫などは通常に営業していることから、影響は軽微。
- ・ とはいえ、中長期的には経済・投資活動への影響は否めず、盤谷日本人商工会議所のアンケート（2013年下半期）も日系企業の景況感が悪化していることを示している。

<今後の展望>

- ・ 政府と野党・デモ隊の主張は平行線であり、軍や選管、司法も特定な介入を避けているので、状況としては睨み合いが続くと考えられる。
- ・ 前回の街中占拠時（2010年）、非常事態宣言は約6カ月ほど施行された。
前々回（2007/08年、空港占拠）、前回（2010年、街中占拠）と同様に、不安定な政情は数ヶ月単位で続くものと考えられる。